

I 調査の概要

1. 調査の目的

今回の発掘調査は、国土交通省（四国地方整備局土佐国道事務所）が計画している平成24年度高知西バイパス建設工事に伴い、いの町奥名の工事区域内に所在する遺跡について事前に発掘調査を実施して遺跡の内容を記録し地域の歴史復元に役立てようとするものです。

2. 調査対象地

いの町字奥名

3. 調査体制

調査委託者 高知県教育委員会

調査実施機関 (公財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター

4. 調査協力

国土交通省土佐国道事務所・いの町・地域の方々

5. 調査期間

平成24年5月23日～平成24年8月10日（予定）

6. 奥名遺跡の概要

奥名遺跡は、いの町の中心部に位置し、仁淀川の支流である宇治川沿いに立地します。遺跡の背後にある丘陵には、弥生時代中期末頃の集落遺跡「バーガ森北斜面遺跡」や、中世の山城「音竹城跡」があります。

昭和54年に行われた宇治川改修工事中に縄文土器が見つかったことで遺跡の存在が明らかになりました。宇治川沿いの旧自然堤防上には、その頃の遺跡が広がっているものと考えられています。



当時の新聞記事（読売新聞）

II. 今回の調査成果

1. 鎌倉～室町時代（南北朝期）を中心とする屋敷。

(1)遺構

掘立柱建物跡、土坑、溝

建物の柱穴に土師質土器を埋めた地鎮の跡。（柱を抜き取り後、納める）

(2)遺物（約1,500点）

土師質土器、瀬戸、常滑、東播系須恵器、青磁、白磁、青花

2. 近世の屋敷。概ね17世紀代と、18世紀後半代。

(1)遺構

掘立柱建物跡、溝、土坑

(2)遺物（約1,500点）

肥前系磁器、唐津、瀬戸などの搬入品。尾戸、能茶山などの地元の製品。

※ 特筆すべきものとして「蓬萊鏡」（ほうらいきょう）と呼ばれる鏡。

また、祈祷した時に使用されたと考えられる墨書が書かれた焙烙鍋と、土師質土器皿。

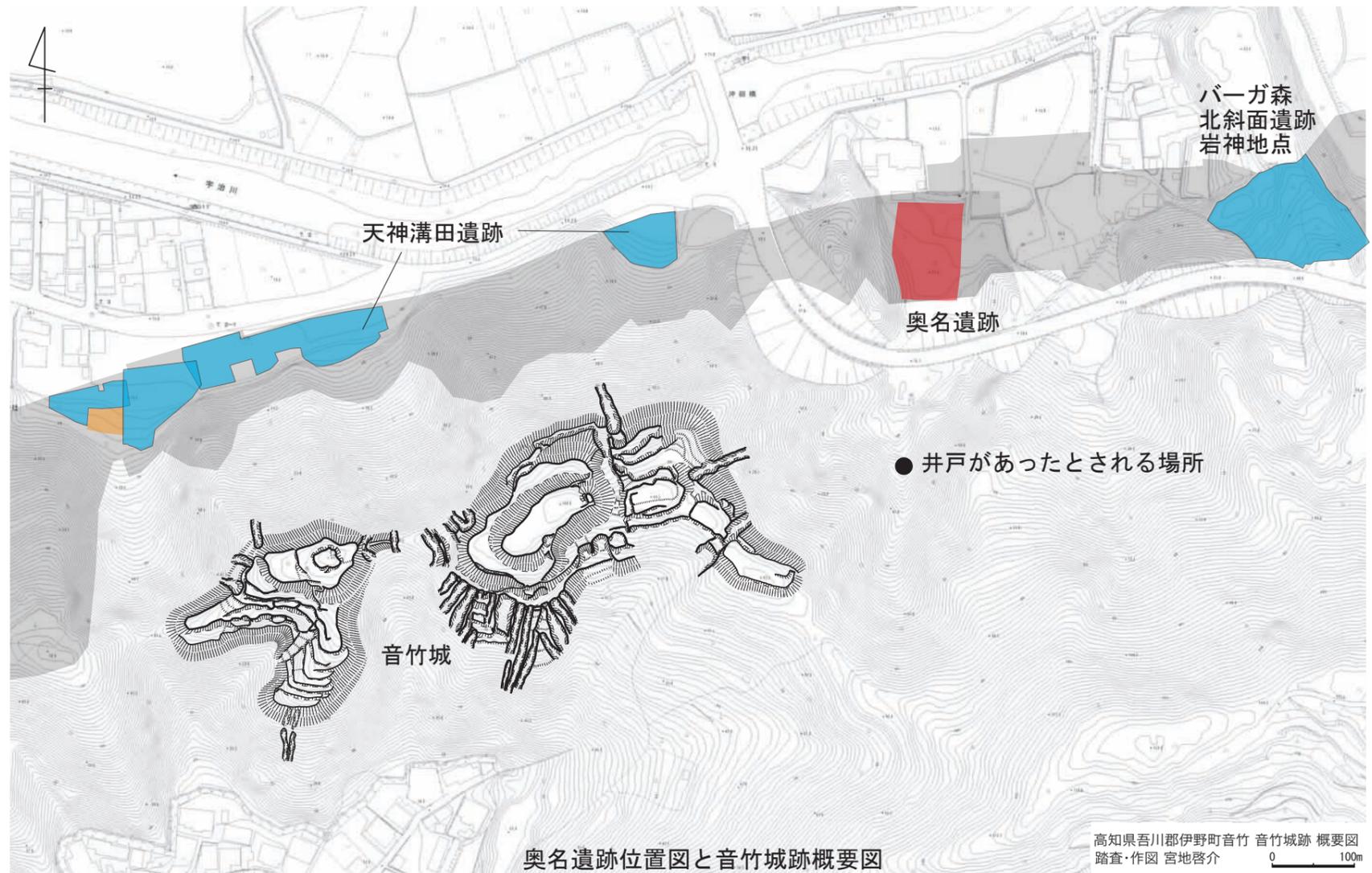
III. まとめ

音竹城跡との関連遺跡か？

今回、調査を行なった奥名遺跡では、南北朝期の掘立柱建物跡や、溝、土坑などがみつかることから音竹城跡に関連する遺跡ではないかと思われ、城の機能時期や、関連する遺跡の広がりを知る事ができました。また、周辺部の調査（天神溝田遺跡）でも、同じ時期の遺構と遺物が確認されており、調査対象地の背後丘陵に立地する音竹城跡に関連する遺跡ではないかと考えられています。

調査対象地の南谷奥には、湧水するところがあり、伝承では城館の井戸があったとされている場所があることから、こうした水利施設を管理する目的で設けられた屋敷跡ではないかと考えられます。

音竹城跡については、城主や機能していた時代などの詳細が不明であり、今回の調査成果により城に関連した施設や中心的な活動の時期を知る事ができました。また、江戸期から現代（大正～昭和初期）に至るまで屋敷地、その一部が耕作地として機能しており、音竹城跡を中心とする集落の変遷が明らかとなりました。



奥名遺跡位置図と音竹城跡概要図



遺構検出状態 (南西から)



古代 (奈良~平安)
中世 (鎌倉~南北朝)

近世 (18c後半~19c)

中世 (鎌倉~南北朝)

遺構配置図 (S:1/300)



和鏡 (蓬萊鏡: 江戸時代)



唐津灰釉皿 (江戸時代)



土錘 (網のおもり)



土師質土器杯 (鎌倉時代)



青磁皿 (鎌倉時代)



柱穴の根石



土抗墓



柱穴の根石



土抗から出土した銅銭



柱穴内部から出土した土師質土器



柱穴内部から出土した陶器